

大空町議会【講演と議会懇談会】 主な質問・意見等集約表

| 会 場         | 開 催 日         | 開催時間                                 | 参 加 者             |     |      |
|-------------|---------------|--------------------------------------|-------------------|-----|------|
|             |               |                                      | 一 般               | 議 員 | 計    |
| 大空町議事堂文化ホール | 平成25年8月30日(金) | 18:00 ~ 20:30<br>(議会懇談会 19:35~20:30) | 94人<br>(うち高校生24人) | 12人 | 106人 |

「議会懇談会の部」での質問・意見等（講演後）

【豊住スポーツクラブ 池田教頭】

豊住スポーツクラブは、スポーツくじ助成金や一部町の補助金を受け平成22年に立ち上げ、当初はバドミントン少年団や剣道少年団が中心だったが、スキー教室やファイターズの試合観戦など、スポーツを通して交流を深めている。豊住小は来年閉校になるが、実際団体の事務局は主として学校が中心となっていて、学校がなくなった後は地元の方々に担っていただくことになる。今一番心配なのは施設の利用についてで、跡地利用として町で検討されているが、引き続き体育館やミーティング室を活動の場として利用させてもらえるか、また、教育委員会のサポートを受けながら活動を支えていただきたいと思います。

【議会運営委員会 植田委員長】

施設利用ができるかどうかと、事務局をどうすべきかということだが、議会として教育委員会に実情を報告して、関心を持って見ていきたいと思う。

【ウィンタースポーツ実行委員会 高橋氏】

ウィンタースポーツ実行委員会では、主にスケートリンクの造成やスケート教室などを行っている。活動の発端は、野球やサッカーなど夏場のスポーツに比べて冬にスポーツをする子が減ってきていることであり、まずスケートリンクを作ってみて、子ども達にスケートを身近なものにしてほしいということから始めたものである。思いのほか協力してくれる方が多く、誰かが始めれば、それがいいものだと言ってくれるとわかってきた。問題点としては、ボランティアとして始めたことで、今は賛助会員を増やし、企業の方に寄附をいただいて運営しているところだが、なかなか費用がかかるものがあり大変な部分はある。また、子ども達にどうやってリンクを使ってもらうかは始めたところからの課題で、小学校の協力により休み時間等に外に出て使ってもらうなどしているが、普通に使ってもらい利用してもらえるよう、努力していきたいと思う。

【議会運営委員会 植田委員長】

今いる子ども達がスケートでオリンピックに出たいなど、純粋な夢を叶えられるような環境づくりが大事と考える。当然先生方の協力などが必要であると思うが、そのような子がこの町から出るような環境づくりというものを頑張っていたらいいと思う。

【ウィンタースポーツ実行委員会 高橋氏】

先生方の協力という点について、スケートに関して何年か指導してきた経験があるが、やはり先生方とのつながりが大きかったと思う。学校の生徒なので、朝から帰りまで子ども達を見ている先生と協力してスポーツを教えるということが重要である。先生方が子ども達のスポーツに対して一歩二歩踏み込んでいけるような環境をつくっていくという、また、子ども達のスポーツにどんどん関わってもらわなければならないと、親御さんにわかっていただくことが必要だと思う。

【女満別高校野球部 鈴木監督】

女満別高校野球部で野球をしたい、子ども達と勝つ喜びを共に味わいたいということを原点としてやって

いるが、町の方に何か声をかけてくれることがあると非常に嬉しく、皆さんに注目していただくというのは励みになり、今の女満別高校の野球部があるのはそういうところなのかなと思う。時にはそれがプレッシャーになったり、大変だなと感じることはあるが、皆さんの声や応援があることで、何とか子ども達とやっていけていると感じている。ボランティアを大事にしているというよりも、もっと単純に、子ども達と野球をやる中でまず野球で喜んでくれれば嬉しいという気持ちと、町の方々に助けていただくということがたくさんあるので、自分達に出来ることはないのか、少しでも皆さんのお役にたてることはないのかと、それではゴミを拾ってみようか、雪がたくさん降った時には練習を変更して除雪に行こうかと、活動をしているところである。最近では寮生がたくさんいて、ほとんどの子ども達は学校とグラウンドで時間を使っていて、どうにか地域の方とふれあう時間を作れないものかと思い、1週間前にデイサービスセンターにお邪魔させていただいた。お年寄りと普段接する機会がない子ども達なので、とって子ども達にとっていい時間となった。これからも継続して月に1・2度は訪問していきたいなと思う。そういう中で、何かつながりというか、その場にいたお年寄りの方も女満別高校の野球部に関心を持ってくれるのかなと思う。そういう町民との関わりというか、そういう活動を少しずつ増やしていくと、私達のやっているスポーツで、一人でも二人でも町の人を元気にすることができるのではないかなと思う。

-----  
【議会運営委員会 植田委員長】

個人的な感想だが、今女満別高校がボランティアだとか、信号機を通った後に車に向かって最敬礼をするだとか何度か経験して感動しているが、そのような子ども達に対する教育とういのはすばらしいと思う。そんな中で、佐藤茂富先生のことを書かれた「北の球人」を読ませてもらったが、その中にも生徒の教育の仕方だとかボランティアを通じた野球というのが書かれている。

-----  
【講師 佐藤茂富先生】

この1年半、寮長、監督を辞めてからボランティアから遠ざかっているが、女満別高校の鈴木監督はしっかりと町のために、子ども達のためにボランティアをされているので、この活動を続けてほしいと思う。

-----  
【地域元気町民会議 大西氏】

議会で「元気づくり」ということについてどのように議論しているのか。明らかに人口は減っていったって今後年寄りが増えていくご時世において、将来にわたって「元気づくり」をどうしていくのかという議論の中においてスポーツを取り上げているのか。それから、町技でバレーボールが知られているが、関連として議論されているのか。

-----  
【議会運営委員会 植田委員長】

「元気づくり」というのはいろいろな形があり、スポーツだけではないと思うが、今回はスポーツというイメージを考えたときにやはり元気でなければスポーツができないと、そういう単純な発想からであり、議会としての「元気づくり」はスポーツだけではないので、そういう意味では一つのポジションというか、スポーツを通じて「元気づくり」をどのように進めていけばいいのか、私達もスポーツ団体の方達との懇談は初めてなので、その方達の意見を聞いて、議会としてどういう対応があるのか、今後考えていきたいと思う。また、スポーツ団体が抱えている悩みだとか、いろいろスポーツに関係している方がいるので、お互いの団体の実情などを、皆さんで共有していただければありがたいと思う。

-----  
【体育協会 佐々木事務局長】

この機会に体育協会、あるいはスポーツ少年団についてご理解をいただければと思う。現在大空町の体育協会は、加盟24団体、総会員数が905人、町民の方の11%が加盟されていることになる。現在スポーツ少年団が9団体あり、団員数は男女合わせて204人の組織となっている。団員数は小中学生の割合に比べれば少ないのではないかなと感じている。そのスポーツ少年団を指導するのは誰かということ、日本スポー

ツ少年団が認めている育成指導者、あるいは認定員ということで、資格を求められている。9団体のうち、5人以上の認定指導者を抱えているのが2団体、4人が1団体、2・3人が2団体、1人が4団体となっている。平成27年度からスポーツ少年団の登録は複数人の認定指導者の登録が義務化されるので、1人なり2人、あるいは3人の少年団は、この2年間の間で認定指導者を養成していかなければならないと思う。それからウィンタースポーツ少年団の高橋さんから、学校の先生との環境づくりについての話があったが、スポーツ少年団を指導していく人達にとって重要なことであり、学校と連携を取りながら育成を図ることが大事である。だが、今現在学校の先生で新しく試験を受けて合格される方のほとんどが、体育会系がゼロと言っても過言ではない。学校の先生ばかりを頼りにするのはなかなか困難な面があると思う。できれば全町的に、町の中にこういう体育団体がある、スポーツ団体があると、少しでも町民の方にPRできるよう、お知らせいただければと思う。

【議会運営委員会 植田委員長】

これを踏まえて、今後の議会活動の参考にしたいと考えていますので、よろしくお願ひしたい。

【ウィンタースポーツ実行委員会 高橋氏】

小さな町でチームを強くしていく上で、小学生、中学生との関わりというのは、どのようなウエイトで考えているのかお聞きしたい。何故かと言うと、小さな町だと小・中一貫の指導という方がメリットというか、私はサッカーも携わっているが、結構強くなっていくことが多い。野球を通してだと、どのような関わりを持っていけばいいのかと思うが。

【女満別高校野球部 鈴木監督】

個人的な考えとなるが、地元の子どもがたくさん入ってほしいといつも思っている。大空町の女満別高校なので、町の子ども達と一人でも多くやっていたらと思う。実際のところ、今女満別の子どもは2名で、あとは近隣市町村の子どもがほとんどというのが現状である。野球に限定すると、女満別小学校のリトルマイティーズ、女満別中学校野球部、今小学校で少し人数が増えてきているのでうれしく思う。この子達が野球を続けて女満別高校に入ってくればありがたいが、現状としては多くなく、どうしたらいいのかなというのは難しい問題である。

【ウィンタースポーツ実行委員会 高橋氏】

高校の監督さんと中学校の監督さん、女満別で言えばリトルマイティーズの監督さん、合わせて一貫して小さい子らを指導する機会というのをつくってもいいのかなと思うがどうか。

【講師 佐藤茂富先生】

高校の部長や監督は、中学生や小学生を指導してはならないと、高野連の規定でなっている。

【ウィンタースポーツ実行委員会 高橋氏】

他のスポーツでは小学生と、中学生・高校生との交流が多い。監督もスタッフもそうだが、一から作り上げていこうというスタイルが出てきている。このことを別にしても、頑張っていたきたいと思う。

〔議会での意見集約と今後の対応〕

・豊住小学校施設を活動拠点にしている「豊住スポーツクラブ」の活動継続について、事務局体制、施設利用、指導者確保、地域の協力体制づくり等の課題があるとの報告があった。

地域スポーツ振興の観点、青少年のスポーツ機会の拡充の観点からスポーツ振興に関わる行政担当者の相談活動が重要であると感じた。

施設利用、事務局体制について、教育委員会に伝え対応について注目していく必要がある。

・ウインタースポーツ実行委員会のボランティア活動によってスケートリンク造成がすすめられ、冬場の子供たちのスポーツ機会を増やす活動が展開されている状況報告があった。

スポーツ環境整備に地域の意識ある協力者が貢献している。

施設の有効活用に向けて、学校教職員の理解と協力が必要との意見は、熱意と実行力のあるスポーツ関係者の声として重く受け止め、教育委員会へ伝え教育委員会としての対応について注目していく必要がある。

・地域のスポーツ少年団活動を支える指導者が増えることが、子どもたちのスポーツ環境を豊かにしていくことに繋がるとの報告があった。

学校教職員への期待も大きいですが、地域における指導者確保が重要であると感じた。

指導者確保について、地元指導者の養成、指導者の資質向上研修の充実に向けた施策の展開について注目していく必要がある。

・スポーツを通じてマナー、礼儀作法、対戦相手への尊敬の念等心と身体の豊かさを育てられる。スポーツ活動への応援参加等スポーツ観戦においても人の感情を豊かにすることができるのではないかと意識して、選手が練習に励むとの報告があった。

スポーツ活動を通じて地域の人々の心を豊かにすることができる関係づくりは、地域の元気づくりに繋がると感じた。スポーツ振興策が地域づくりとどのように繋がって行くのか今後も注目していく必要がある。

・スポーツ指導者の連携協力を進める情報交流機会の設定が必要であるとの報告があった。指導者相互の情報交換、交流の機会づくりが青少年のスポーツ活動振興に繋がると感じた。

スポーツ種目毎の指導者交流を進める等実施可能な分野から施策を展開してはどうかと感じた。

指導者養成事業の展開について注目していく必要がある。